

大附中新聞

3月6日発行
第2号

二〇一六年度

最終号

二〇一六年度もいよいよ終わりを迎えるようになっています。第二号では今年度生徒会会員として一年間学校新聞編集委員を務めて下さった皆さん全員に二〇一六年度を振り返って感じたことや好きなことなどを自由に書いて頂きました。

僕がこの一年間を通して、先輩方はとても優しく頼りになる、と感じました。入学してすぐの頃、不安だった僕たちに先輩方は委員会や班活動だけでなく、普段の生活についても

色々なことを教えて下さいました。先輩方が気軽に声をかけて下さったおかげで僕たちが安心したのを今でも覚えています。そんな先輩方の姿は、僕たちの理想の先輩像です。僕たちもこの四月に入学する先輩になれるよう、努力していきます。

(一年)

私が二〇一六年度で印象深かったことといえば、時間の流れだったと思います。入学当初の集合写真を今になって見てみると、全員カチカチに固まり、顔がこわばっていました。しかし、二〇一六年最後に撮った写真は、皆が笑顔でした。いつの間にか仲良くな

っていたIAももうすぐで終わりを迎えます。IAのクラスメイト全員にとつて、このクラスはかけがえない思い出を与えてくれた宝物であったことを願います。

(一年)

初めての附中新聞の記事として似島研修について書いてから記事を書くことはありませんでした。が、色々な行事について客観的に物事を考えられるようになりました。家でも新聞をよく読んでから似島研修についての記事の内容を考えていました。学校新聞編集委員となって、新聞記者を務めることの難しさや主観的な考えを除いて新聞の記事を書くことの大切さが分かり、自分分は新聞の記事を書くことに向いているかもしれない、と感じました。

(一年)

三年生を送る会の合唱の練習をしていると、思いつき言葉があります。「人の音も自分の音も大切に」という言葉です。一つのパートだけが目立ち過ぎると、他のパートの音が聞こえませんが、お互いのパートの音を尊重して聞き合わないといけません。これは日常生活でも言えることです。お互いの個性を尊重して活かさなければなりません。三年生を送る会でも、日常生活でも、豊かなハーモニーを奏でていきたいです。

(一年)

この頃、自身の無力さ、というものをひしひと感じることがあります。テニ

スでは、どれだけ力を込めて球を打っても憎き先輩にいつも簡単にはじき返されてしまいます。持久走では、いつも必死で走っているにも関わらず、時に他の人に二周差をつけられてしまいます。つくづく空しさを感ずります。くだらないことかもしれませんが、やはり勝負には勝ちたいです。しかし、すぐには実力は身に付きません。日々の努力を惜しまず、力を付けていこうと思います。

(一年)

もし「宇宙人を信じますか」と聞かれたら、「はい」と答えるか、「いいえ」と簡単に答えられると思いますが、「自分の持つ力を信じますか」と聞かれると、少し悩んでしまいます。自分を「信じる」ことの意味は深いようです。皆さんは二〇

一六年度、自分のことを信じ続けることが出来たでしょうか。たとえ出来なかったとしても、今こそ自分を信じて頑張つて下さい。二〇一七年度はきつと輝けると思います。

(一年)

もうすぐで終わりを迎える二〇一六年度も色々なことがありました。文化祭、体育祭などの行事でも普段の学校生活でも、とても楽しい一年となりました。今、今年度を振り返ってみると、たくさんの苦労したことや楽しかったことが思い浮かびます。そんな経験をいかして学校での行動をより良くしていきたいです。

(二年)

読書という言葉を聞いて

皆さんは何を思うでしょうか。あまり好きではないという人もいるかもしれませんが。一言で「読書」と言っても本には色々な読み方があると感じます。一例ですが、私は本の中の登場人物はどのような性格なのかを深く考えて読んでいきます。そのことで物語も面白い、と感じます。皆さんもこの機会に読書に目を向けて、自分なりの読み方を見つけてみてはどうでしょうか。

(二年)

二年生に進級してからまもなく一年が経とうとしています。この約一年間の間に様々なことを経験することが出来ました。文化祭や体育祭など、昨年度に引き続き大きな行事がたくさんありました。後輩が出来たこともあり、

一層緊張感を持って行事などに臨むことができた、と思います。また、班活動では、長い間に一緒に活動させて頂いた三年生の先輩方の引退などもあり、より気持ちの引き締まる一年となりました。

(二年)

二〇一六年度は「変化」の一年でした。先輩になることによる立場の変化、クラス替えなどによる人間関係の変化、考え方の変化など、この一年間で色々なことに変化が起きました。しかし、それらは私が意図して変えようとしたものではなく、日本人は変化を嫌うと言われる。そのような所があります。変化を恐れずに自ら何かを変えようとする勇氣を持てるようになりたいです。

(二年)

僕はこの一年間でユニケーションを取ることの難しさをとても思い知りました。学校行事においても、他人と連携を取ることができず、混乱してしまつたこともありました。日本や世界の政治の様子を見ていても、子供の喧嘩を見ているようで、逆に面白く感じてしまいます。その点、この学校は物事を伝える力に長けていると思います。次年度は今年度と違うことばかりだと思いますが、僕は附属での行事や出来事をたくさんの人に伝える附属生の力に期待でいっぱいです。

(二年)

私の周りには特技のある人が多いです。ピアノの

演奏が上手であったり、字が綺麗であったりとひとよつて様々ですが、皆自分が得意とする何かを持っていて、それらには特に楽しそうに取り組み、さらに上達していつているように感じます。たくさんの方にチャレンジする、ということもとても良い経験になると思いますが、自分にとって特別な一つのことと打ち込む、ということも素敵だと思います。

(二年)

附属には、興味深い授業をして下さる先生がたくさんいらっしゃいます。例えば、公民の授業では政治の仕組みなどについて分かりやすいように身近な例を使って説明して下さいます。音楽の授業でギターを弾いた時には、先生がとても刺激的な授業をし

て下さいました。僕たちの学年は皆素晴らしい発想力を持っていて、本当に笑いが絶えません。中学校生活三年間を附属で過ごすことができ、とても楽しかったです。ありがとうございます。ありがとうございました。

(三年)

先日教室の黒板に「卒業まであと二十日」と書かれてあったのを見て、とても驚きました。二月ももう折り返し地点を過ぎ、卒業の日は着実に近づいているのに、実感が湧きません。期末テストもあり、忙しくなるので二十日間という日数などすぐに過ぎてしまふと思います。この中学校の校舎で友達と過ごす時間を大切にし、残りの日々を楽しく生活していきたいです。

(三年)

この一年間はとても充実したものになったと思います。特に文化祭や体育祭ではクラスや学年の中で団結することができました。文化祭では演劇の主役を務めさせて頂き、役者や裏方の人のたくさんのおかげもあって、最後には大きな達成感を感じることができました。次年度は今年度の反省を活かし、より良い一年にしていきたいです。

(三年)

今年度は私にとって中学校生活最後の年であり、多くの行事で最高学年としての責任を感じました。同時に、自分の進路を考える機会も増えました。最も印象的だったのは学部訪問で、実際の場に触れることで、より具体的な将来のイメージが持てるように

なりました。自分の将来は自分でしか決めることができないので、高校生になっても文武両道を大切にしながら有意義な生活を送りたいです。

(三年)

僕は「Poliyama」という曲が好きです。この曲はあるゲームの序盤に流れる曲です。レトロゲーム特有のどんぼかどんぼか、という八ビット音源は、他の音楽と比べると聞き劣りし、色々と足りないように感じます。しかし、それこそがこの曲を一際輝かせているのだと思います。人間もこれと同じではないでしょうか。完璧ではつまらないと思います。人は何か足りないものがあってこそ面白いのだと思います。

(三年)

今や日本人の四人に一人がかかっている、と言われている花粉症。私もその一人です。対策としては、マスクの着用や手洗いがいが有名ですが、室内に花粉を持ち込まないようにするために、室内に入るまえに衣服に付いた花粉を払い落す、などの方法も効果的です。二月から三月にかけてはスギ、四月はヒノキの花粉のピークです。ピークが過ぎても油断せず、しっかりと花粉対策をして春を乗り切りましょう。

(三年)

執行部から！

二〇一七年度執行部は三年生を送る会はもちろん、その他たくさん生徒会行事の準備が進められています。今回は三年生を

送る会担当の さ
ん、新入生歓迎会担当の

くんが担当する行事について伺いました。また、一から三年生の各クラスが、三年生を送る会での発表で歌う合唱曲とアーティスト名を記載します。

三年生を送る会

二〇一六年度三月六日に三年生を送る会が行われます。この会は、中学校を卒業される三年生の先輩方に感謝の気持ちを伝えるために行われます。しかし、この会の目的は、それだけではなくあります。一、二年生は、在校生として、立派に成長した姿を卒業生に見せます。三年生は、卒業生として、三年間の集大成にふさわしい姿を在校生に見せます。どの学年も、合唱の練習を進める中

で、クラス、学年の壁を越えて団結し、絆を確かめ合うことを目的としています。

それぞれの学年に、「在校生としての姿」「卒業生としての姿」は何かを考えながら参加してもらうことで、今年の生徒会スローガンである「状況を見て、本当にすべきことを考える」の達成に少しでも近づくことができると考えています。

みなで、思い出の一ページとなる会にしましょう。よろしくお願ひします。
(二年)

新入生歓迎会

二〇一六年度三月六日に三年生を送る会が行われますが、次に行われる生徒会行事と言えば二〇一七年度四月十日に行われる新入生歓迎会です。この

行事は入学して間もない新入生に附属生としての自覚を持つてもらおうということが目的ですが、在校生にも大きな目的があります。それは、生徒会について再認識し、上級生としての自覚を持つてもらおうことです。皆さんの中にも、生徒会は何のためにあるのか、また、生徒会の会員は誰なのか分からない人が多いかと思ひます。それを新入生歓迎会で再認識してほしいと考えています。だから、上級生の皆さんはただ班活動の紹介を見て楽しむだけではなく、そこで行われる生徒会・行事紹介を見て、生徒会について再認識して下さい。生徒全員が生徒会を詳しく知ることにより、よい良い行事や学校生活をつくりあげることができると思ひます。

(二年)

三年生を送る会

合唱曲

1A: 「歩いていこう」

～いきものがかり～

1B: 「遙か」

～GReeeeN～

1C: 「友」

～ゆず～

2A: 「時の足音」

～コブクロ～

2B: 「結」

～miwa～

2C: 「GIFT」

～Mr.Children～

3A: 「奏」

～スキマスイッチ～

3B: 「ラストシーン」

～いきものがかり～

3C: 「未来」

～コブクロ～

そして三年生の学年発表の合唱曲は、さんの「旅立ちの日に:」です。

三年生を送る会本番での発表をぜひ楽しみにしていて下さい。

～あとがき～

附中新聞第二号はいかがでしたか。今回はテーマを設定したいつもの附中新聞とは一味違った面白さがあったのではないのでしょうか。テーマを設定せず、自由に記事を書いて頂いたことで学校新聞編集委員全員の個性を感じる事ができたと思ひます。二〇一六年度学校新聞編集委員として活動して下さい皆さん全員の記事

を読むことができるのも第二号が最後です。

また今回は生徒会執行部の仕事についての記事もありました。今後も皆さんが生徒会会員として生徒会行事や生徒会の活動に興味を持てる機会を附中新聞に設けておこうと思ひます。

最後に生徒会スローガンについてです。附中新聞第一号に記載されていた二〇一七年度生徒会スローガンを覚えていますか。生徒会スローガンは「状況を見て、本当にすべきことを考える」です。その場の状況を考え、自分が本当にしなければいけないことを生徒会会員として考えましょう。そうすることでより良い附属中学校をみんなで作っていきましょう。ではないでしょうか。
(学校新聞編集委員長)

)